

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2019-165939

(P2019-165939A)

(43) 公開日 令和1年10月3日(2019.10.3)

(51) Int.Cl.

A63F 7/02 (2006.01)

F 1

A63F 7/02 304D

テーマコード (参考)

2C088

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 24 頁)

(21) 出願番号 特願2018-55603 (P2018-55603)
(22) 出願日 平成30年3月23日 (2018.3.23)

(71) 出願人 599104196
株式会社サンセイアールアンドディ
愛知県名古屋市中区丸の内2丁目11番1
3号
(74) 代理人 100112472
弁理士 松浦 弘
(74) 代理人 100202223
弁理士 軸見 可奈子
(72) 発明者 宮永 真
愛知県名古屋市中区丸の内2丁目11番1
3号 株式会社サンセイアールアンドディ
内
Fターム(参考) 2C088 DA07 EB78

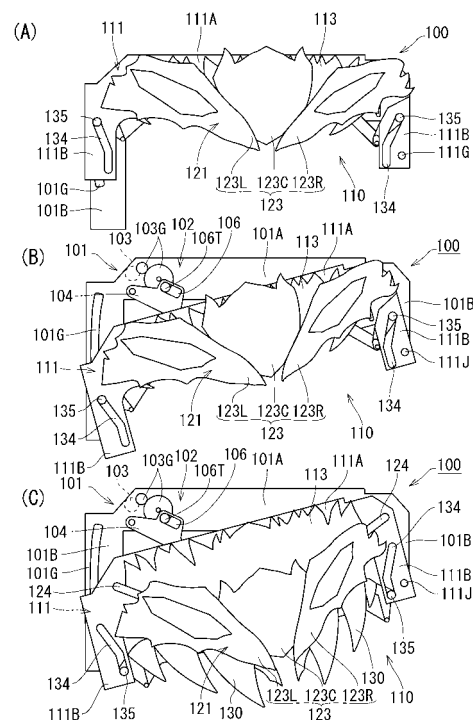
(54) 【発明の名称】 遊技機

(57) 【要約】

【課題】可動役物装置の動作の趣向性向上が図られる遊技機の提供を目的とする。

【解決手段】本発明の遊技機10は、第1可動役物装置100を有する。第1可動役物装置100には、前後方向に沿った回転軸を中心として第1回転位置と、第2回転位置の間を移動可能な回転ベース111が備えられている。その回転ベース111には、回転ベース111の回転方向である第1回転位置側の第1進退位置と、第2回転位置側の第2進退位置との間を移動可能な進退部材121が搭載されている。

【選択図】図4



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

可動役物装置を備えた遊技機において、

前記可動役物装置は、

第 1 装飾部を備えると共に、前後方向に沿った回動軸を中心として回動可能に支持されて第 1 回動位置と第 2 回動位置の間を移動可能な回動部材と、

第 2 装飾部を備えると共に、前記回動部材に搭載されて前記回動部材の回動方向に進退可能であって前記第 1 回動位置側の第 1 進退位置と前記第 2 回動位置側の第 2 進退位置との間を移動可能な進退部材と、を有し、

前記回動部材に備えた前記第 1 装飾部は、前記進退部材が前記第 1 進退位置に配置されたときに前記進退部材の前記第 2 装飾部に前側を覆われ、前記進退部材が前記第 2 進退位置に配置されたときに前記進退部材の外側に露出する、遊技機。

10

【請求項 2】

前記第 2 装飾部は、前記第 2 進退位置側を中心として扇状に並べられた複数の装飾部構成体からなり、

前記複数の装飾部構成体は、前記進退部材が前記第 1 進退位置から前記第 2 進退位置へ向かうにつれて前記第 1 進退位置側が互いに近づくように寄せられる、請求項 1 に記載の遊技機。

【請求項 3】

前記可動役物装置は、

20

前記進退部材に搭載されて前記進退部材の進退方向に沿って移動可能に支持され、前記進退部材に重ねられる退避位置と前記進退部材から前記第 2 進退位置側に突出する突出位置との間を移動可能な突出部材をさらに有し、

前記突出部材は、前記進退部材の前記第 1 進退位置から前記第 2 進退位置への移動に伴って前記退避位置から前記突出位置に移動する、請求項 1 又は 2 に記載の遊技機。

【請求項 4】

前記突出部材は、前記退避位置に配置されたときに前記進退部材に前側を覆われる、請求項 3 に記載の遊技機。

【請求項 5】

前記突出部材は、前記進退部材に回転自在に支持され、その回転中心から離れた部位が前記進退部材の移動に伴って前記回動部材に摺接することで回転するように構成された、請求項 3 又は 4 に記載の遊技機。

30

【請求項 6】

前記突出位置は、前記進退部材がその移動ストロークの途中位置より前記第 2 進退位置側を移動するときに、前記進退部材と一体になって前記回動部材の回動方向に移動する、請求項 5 に記載の遊技機。

【請求項 7】

前記回動部材の前記回動軸は、前記回動部材において、前記第 2 回動位置側であって前記回動部材の回動方向と直交する方向の片側に寄せて配置されている、請求項 1 乃至 6 のうち何れか 1 の請求項に記載の遊技機。

40

【請求項 8】

前記回動部材及び前記進退部材には、前記回動部材の回動方向と直交する方向で対をなす 1 対の装飾部が設けられ、

前記 1 対の装飾部のうち前記回動部材の前記回動軸から遠い側の装飾部は、該回動軸から近い側の装飾部より大きく形成されている、請求項 7 に記載の遊技機。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、可動役物装置を備えた遊技機に関する。

【背景技術】

50

【 0 0 0 2 】

特許文献 1 の遊技機では、可動役物装置が、前後方向に沿った回動軸を中心として回動可能な回動部材を備えている。

【 先行技術文献 】

【 特許文献 】

【 0 0 0 3 】

【 特許文献 1 】 特開 2 0 0 8 - 1 0 4 6 3 7 号 (段落 [0 1 3 1] ~ [0 1 3 2] 、 図 1 1 、 図 1 5)

【 発明の概要 】

【 発明が解決しようとする課題 】

10

【 0 0 0 4 】

特許文献 1 の遊技機では、可動役物装置の動作が単純で興趣に欠けるという問題があった。

【 0 0 0 5 】

本発明は、上記事情に鑑みてなされたもので、可動役物装置の動作の趣向性向上が図られる遊技機の提供を目的とする。

【 課題を解決するための手段 】

【 0 0 0 6 】

第 1 の手段は、可動役物装置を備えた遊技機において、前記可動役物装置は、第 1 装飾部を備えると共に、前後方向に沿った回動軸を中心として回動可能に支持されて第 1 回動位置と第 2 回動位置の間を移動可能な回動部材と、第 2 装飾部を備えると共に、前記回動部材に搭載されて前記回動部材の回動方向に進退可能であって前記第 1 回動位置側の第 1 進退位置と前記第 2 回動位置側の第 2 進退位置との間を移動可能な進退部材と、を有し、前記回動部材に備えた前記第 1 装飾部は、前記進退部材が前記第 1 進退位置に配置されたときに前記進退部材の前記第 2 装飾部に前側を覆われ、前記進退部材が前記第 2 進退位置に配置されたときに前記進退部材の外側に露出する、遊技機である。

20

【 発明の効果 】

【 0 0 0 7 】

上記発明によれば、可動役物装置の動作の趣向性向上が図られる。

【 図面の簡単な説明 】

30

【 0 0 0 8 】

【 図 1 】 本発明の一実施形態に係る遊技機の正面図

【 図 2 】 遊技盤の正面図

【 図 3 】 機構枠の正面図

【 図 4 】 第 1 可動役物装置の動作を示す正面図

【 図 5 】 回動ベースの動作を示す正面図

【 図 6 】 進退部材の動作を示す側断面図

【 図 7 】 直動駆動機構の動作を示す図

【 図 8 】 装飾部材の動作を示す正面図

【 図 9 】 突出部材の動作を示す正断面図

40

【 図 1 0 】 第 2 可動役物装置の動作を示す正面図

【 図 1 1 】 (A) 第 1 可動部の側断面図、 (B) 第 2 可動部の側断面図

【 図 1 2 】 第 1 駆動機構の正面図

【 図 1 3 】 第 1 可動体の動作を示す正面図

【 図 1 4 】 第 2 駆動機構の正面図

【 図 1 5 】 第 2 可動体の動作を示す正面図

【 図 1 6 】 複合役物演出を説明するための正面図

【 図 1 7 】 本発明の変形例に係る直動駆動機構の動作を示す図

【 発明を実施するための形態 】

【 0 0 0 9 】

50

図 1 に示されるように、本実施形態の遊技機 10 は、前面枠 10 Z を前面に備え、その前面枠 10 Z に形成されたガラス窓 10 W を通して、図 2 に示す遊技盤 11 の前面に形成された遊技領域 R1 が視認可能になっている。なお、以下の説明において、特記しない限り「右」及び「左」とは、遊技機 10 を前方から見た場合の「右」及び「左」を指すものとする。

【0010】

前面枠 10 Z のうちガラス窓 10 W より下方には、上皿 26 と下皿 27 が上下 2 段にして設けられ、下皿 27 の右側には、発射ハンドル 28 が備えられている。そして、発射ハンドル 28 が回転操作されると、上皿 26 に収容された遊技球が遊技領域 R1 (図 2) に向けて弾き出される。

10

【0011】

図 2 に示されるように、遊技領域 R1 は、遊技盤 11 の前面から突出したガイドレール 12 に囲まれている。遊技盤 11 のうち遊技領域 R1 の中央には、表示開口 11 H が貫通形成され、この表示開口 11 H を通して、表示装置 13 の表示画面 13 G が前方に臨んでいる。表示画面 13 G では、遊技に関する種々の演出が行われる。

【0012】

表示開口 11 H の開口縁には、表示画面 13 G を囲むように表示装飾枠 23 が取り付けられている。表示装飾枠 23 は、遊技盤 11 の前面側から表示開口 11 H に嵌め込まれて遊技盤 11 の前面から突出し、遊技領域 R1 を流下する遊技球が表示装飾枠 23 の内側に進入することを規制している。

20

【0013】

遊技領域 R1 のうち表示装飾枠 23 より下側部分の横方向の中央部には、第 1 始動入賞口 14 AK が設けられている。第 1 始動入賞口 14 AK は、遊技球が 1 つずつ入球可能な大きさの開口を上部に有するポケット構造をなしている。

【0014】

第 1 始動入賞口 14 AK の下方には、第 1 大入賞装置 15 A が設けられている。第 1 大入賞装置 15 A は、右側に開放した第 1 大入賞口 15 AK と、第 2 大入賞口 15 AK の右側に配置された第 1 可変部材 15 AT と、を備えている。第 1 可変部材 15 AT は、左下り傾斜し、遊技盤 11 の前面から突出した第 1 突出位置と、該第 1 突出位置より突出が抑えられた第 1 退避位置と、の間をスライド可能に構成されている。そして、第 1 可変部材 15 AT が第 1 突出位置に配置されたときに、第 1 可変部材 15 AT を案内にして遊技球が第 1 大入賞口 15 AK に入球可能となり、第 1 可変部材 15 AT が第 1 退避位置に配置されたときに、遊技球が第 1 大入賞口 15 AK に入球困難となる。

30

【0015】

遊技領域 R1 のうち表示装飾枠 23 の右側には、始動ゲート 18 が設けられている。始動ゲート 18 は、遊技領域 R1 を流下する遊技球が潜って通過可能な門形状に形成されている。始動ゲート 18 を遊技球が通過すると、普通図柄当否判定が行われる。

【0016】

始動ゲート 18 の下方には、第 2 始動入賞装置 14 B が設けられている。第 2 始動入賞装置 14 B は、左側に開放した第 2 始動入賞口 14 BK と、第 2 始動入賞口 14 BK の左側で右下がりに傾斜した始動可変部材 14 BT と、を備えている。始動可変部材 14 BT は、遊技盤 11 の前面から突出した始動突出位置と該始動突出位置より突出が抑えられた始動退避位置との間をスライド可能に構成されていて、通常は、始動退避位置に配置され、上述した普通図柄当否判定の結果が当りになると、所定の期間だけ始動突出位置に配置される。そして、始動可変部材 14 BT が始動突出位置に配置されたときに、始動可変部材 14 BT を案内にして遊技球が第 2 始動入賞口 14 BK に入球可能となり、始動可変部材 14 BT が始動退避位置に配置されたときに、遊技球が始動入賞口 14 BK に入球困難となる。

40

【0017】

第 2 始動入賞装置 14 B の下方には、第 2 大入賞装置 15 B が設けられている。第 2 大

50

入賞装置 1 5 B は、上側に開放した第 2 大入賞口 1 5 B K と、第 2 大入賞口 1 5 B K を開閉する第 2 可変部材 1 5 B T と、を備えている。第 2 可変部材 1 5 B T は、遊技盤 1 1 の前面から突出した第 2 突出位置と、該第 2 突出位置より突出が抑えられた第 2 退避位置と、の間をスライド可能に構成されている。そして、第 2 可変部材 1 5 B T が第 2 突出位置に配置されたときに、第 2 大入賞口 1 5 B K が閉塞されて遊技球が第 2 大入賞口 1 5 B K に入球困難となり、第 2 可変部材 1 5 B T が第 2 退避位置に配置されたときに、第 2 大入賞口 1 5 B K が開放されて遊技球が第 2 大入賞口 1 5 B K に入球可能となる。

【 0 0 1 8 】

第 1 始動入賞口 1 4 A K 又は第 2 始動入賞口 1 4 B K に遊技球が入球すると、所定数の遊技球が賞球として上皿 2 6 (図 1 参照) に払い出されると共に、特別図柄当否判定が行われる。

10

【 0 0 1 9 】

特別図柄当否判定の結果が当たりになると、大当り遊技が実行され、第 1 大入賞口 1 5 A K 又は第 2 大入賞口 1 5 B K に遊技球が入球可能となる。第 1 大入賞口 1 5 A K 又は第 2 大入賞口 1 5 B K に遊技球が入球すると、所定数の遊技球が賞球として払い出される。

【 0 0 2 0 】

遊技領域 R 1 には、上述した入賞口 1 4 A K , 1 4 B K , 1 5 A K , 1 5 B K のほかに、上方又は側方に開放して遊技球が常時入球可能な一般入賞口 2 0 が複数設けられている。また、遊技領域 R 1 の下端部、具体的には、第 1 可変部材 1 5 A T の下方には、何れの入賞口にも入球しなかった遊技球を遊技領域 R 1 の外側に排出するためのアウト口 1 6 が設けられている。さらに、遊技領域 R 1 には、遊技球の流下方向をランダムに変更するための障害釘 K が多数植設されている。

20

【 0 0 2 1 】

本実施形態の遊技機 1 0 では、遊技盤 1 1 の後側に、図 3 に示される機構枠 1 7 を備えている。機構枠 1 7 には、第 1 可動役物装置 1 0 0 と第 2 可動役物装置 2 0 0 を含む種々の装置が組み付けられている。

【 0 0 2 2 】

[第 1 可動役物装置 1 0 0]

図 3 及び図 4 に示されるように、第 1 可動役物装置 1 0 0 は、機構枠 1 7 に固定された固定ベース 1 0 1 と、固定ベース 1 0 1 に対して移動可能な移動演出部 1 1 0 と、を有する。図 5 (B) に示されるように、固定ベース 1 0 1 は、横辺部 1 0 1 A と、横辺部 1 0 1 A の両側部から下側へ延びた 1 対の縦辺部 1 0 1 B , 1 0 1 B と、からなる。横辺部 1 0 1 A は、機構枠 1 7 の上辺部 1 7 J に前側から重ねられ、1 対の縦辺部 1 0 1 B , 1 0 1 B は、機構枠 1 7 の側辺部 1 7 S , 1 7 S に重ねられる。なお、左側の縦辺部 1 0 1 B は、右側の縦辺部 1 0 1 B よりも長くなっている。

30

【 0 0 2 3 】

図 4 (A) 及び図 4 (B) に示されるように、移動演出部 1 1 0 は、固定ベース 1 0 1 に対して前後方向に沿った軸を中心に回動可能な回動ベース 1 1 1 を備えている。図 5 に示されるように、回動ベース 1 1 1 は、回動横辺部 1 1 1 A と、回動横辺部 1 1 1 A の左右の両端部から下側へ延びた 1 対の回動縦辺部 1 1 1 B , 1 1 1 B と、を備えた略門形状に形成されている。なお、1 対の回動縦辺部 1 1 1 B , 1 1 1 B は共に、固定ベース 1 0 1 の右側の縦辺部 1 0 1 B と略同じ長さになっている。

40

【 0 0 2 4 】

図 5 (A) 及び図 5 (B) に示されるように、回動ベース 1 1 1 は、固定ベース 1 0 1 の右側の縦辺部 1 0 1 B の下端部に回動可能に支持され、通常は、第 1 回動位置 (図 5 (A) 参照) に配置されている。回動ベース 1 1 1 が第 1 回動位置に配置された状態では、回動横辺部 1 1 1 A が固定ベース 1 0 1 の横辺部 1 0 1 A に前側から重ねられ、1 対の回動縦辺部 1 1 1 B , 1 1 1 B が固定ベース 1 0 1 の 1 対の縦辺部 1 0 1 B , 1 0 1 B に前側から重ねられる。所定の回動条件が成立すると、回動ベース 1 1 1 は、左側の回動縦辺部 1 1 1 B が下方へ移動するように反時計方向に回転して、第 2 回動位置 (図 5 (B) 参

50

照)に配置される。このとき、回動ベース111は、回動横辺部111Aが左下がりに傾斜するように配置され、表示画面13G(図2参照)の中央部を前側から覆う。ここで、回動ベース111の回動軸部111Jは、回動ベース111の横方向一方側の下端部(具体的には、回動縦辺部111Bの下端部)に配置されるので、第2回動位置へと向かう回動ベース111を傾くように見せることが可能となる。

【0025】

なお、固定ベース101の左側の縦辺部101Bには、回動ベース111の回転軸部111Jを中心とした円弧状のガイド孔101Gが形成されていて、このガイド孔101Gに、回動横辺部111Aの左側部から後側(図5では、紙面奥側)に突出するガイド突部111Gが係合することで、固定ベース101に対する回動ベース111の回動の安定化が図られている。

10

【0026】

回動ベース111は、固定ベース101に搭載された回動駆動機構102により駆動される。回動駆動機構102は、駆動源103と、駆動源103により駆動される回動レバー104と、を備えている。回動レバー104は、固定ベース101の横辺部101Aの左端寄り部分に回動可能に支持され、その回動中心から右側へ張り出している。回動レバー104の先端部には、回動レバー104の張り出し方向に延びた先端長孔105が形成されていて、この先端長孔105に、回動ベース111の横辺部111Aから後側に突出した係合突部105Tが係合している。また、回動レバー104の中間部には、回動レバー104の張り出し方向に延びた中間長孔106が形成されている。中間長孔106には、駆動源103により駆動される中継ギア103Gに形成された回転突部106Tが係合している。そして、中継ギア103Gが回転すると、回動レバー104が回動し、回動ベース111が固定ベース101に対して回動軸部111Jを中心に回動する。

20

【0027】

図6に示されるように、回動ベース111は、回動ベース本体112と、回動ベース112に前側から重ねて固定された装飾プレート113と、を備える。具体的には、回動ベース本体112は、前壁112Aと後壁112Bの上端部同士が天井壁112Tで連絡されて、下側に開放した断面コの字状をなし、前壁112Aの前面に装飾プレート113が固定されている。なお、前壁112Aの天井壁112Tからの突出量は後壁112Bよりも小さくなっている。

30

【0028】

図4(B)から図4(C)の変化に示されるように、移動演出部110は、回動ベース111に搭載されて回動ベース111の回動方向に移動可能な進退部材121を備えている。図6に示されるように、進退部材121は、前後方向で対向したスライド部材122と装飾部材123の下端部同士が連結部材121Aによって連結されてなる。スライド部材122は、前後方向で回動ベース111の後壁112Bと装飾プレート113の間に配置され、装飾部材123は、回動ベース111の装飾プレート113より前側に配置されている。

【0029】

スライド部材122は、後壁112Bに対して天井壁112Tと略垂直な方向に直動可能となっている。具体的には、図7に示されるように、後壁112Bには、天井壁112Tに対して略垂直な方向に延在するガイド孔112Gが形成されていて、このガイド孔112Gに、スライド部材122から後側に突出したガイド突部122Gが係合することで、スライド部材122が回動ベース112に直動可能に支持されている。

40

【0030】

進退部材121は、通常は、図6(A)及び図7(A)に示される第1進退位置に配置される。このとき、スライド部材122は、回動ベース111の装飾プレート113の後側に配置され、装飾部材123は、装飾プレート113を前側から覆う。所定のスライド条件が成立すると、スライド部材122がガイド孔112Gに沿って下側へ移動し、進退部材121は、図6(B)及び図7(B)に示される第2進退位置に配置される。このと

50

き、スライド部材 1 2 2 及び装飾部材 1 2 3 は、装飾プレート 1 1 3 から下側に突出し、装飾プレート 1 1 3 が露出する。そして、装飾プレート 1 1 3 と装飾部材 1 2 3 の装飾が回動ベース 1 1 1 の回動方向に並べられる（図 4（C）参照）。

【0031】

図 7 に示されるように、スライド部材 1 2 2 は、回動ベース 1 1 1 に備えた直動駆動機構 1 1 5 によって駆動される。直動駆動機構 1 1 5 は、駆動源 1 1 6 と、駆動源 1 1 6 により駆動される回動レバー 1 1 7 と、を備えている。回動レバー 1 1 7 は、回動ベース 1 1 1 の後壁 1 1 2 B の右側部に回動可能に支持され、その回動中心から左側へ張り出している（回動ベース 1 1 1 を後側から見た図 7 では、左右が反対に示されている。）。なお、詳細には、図 6 に示されるように、後壁 1 1 2 B は、中空構造に形成されていて、回動レバー 1 1 7 は、後壁 1 1 2 B の内部に収容されている。

10

【0032】

図 7 に示されるように、回動レバー 1 1 7 の先端部は、ガイド孔 1 1 2 G と重なるように配置され、回動レバー 1 1 7 の先端部には、回動レバー 1 1 7 の張り出し方向に延びた先端長孔 1 1 8 が形成されている。そして、この先端長孔 1 1 8 に、上述したスライド部材 1 2 2 のガイド突部 1 2 2 G が係合している。また、回動レバー 1 1 7 の中間部には、回動レバー 1 1 7 の張り出し方向に延びた中間長孔 1 1 9 が形成されている。中間長孔 1 1 9 には、駆動源 1 1 6 により駆動される中継ギア 1 1 6 G に突設された回転突部 1 1 9 T が係合している。中継ギア 1 1 6 G が回転すると、回動レバー 1 1 7 が回動し、スライド部材 1 2 2 がガイド孔 1 1 2 G に沿って直動する。

20

【0033】

図 8 に示されるように、装飾部材 1 2 3 は、左側装飾構成体 1 2 3 L と中央側装飾構成体 1 2 3 C と右側装飾構成体 1 2 3 R の 3 つの装飾構成体を横並びにして備えている。上述した連結部材 1 2 1 A（図 6 参照）は、中央側装飾構成体 1 2 3 C とスライド部材 1 2 2 とを連結し、中央側装飾構成体 1 2 3 C は、スライド部材 1 2 2 と一体に移動する。

【0034】

左側装飾構成体 1 2 3 L と右側装飾構成体 1 2 3 R は、中央側装飾構成体 1 2 3 C に回転自在に支持されている。具体的には、中央側装飾構成体 1 2 3 C は、下側が幅狭となる逆台形状に形成されていて、左側装飾構成体 1 2 3 L は、中央側装飾構成体 1 2 3 C の下端部の左側部に支持され、右側装飾構成体 1 2 3 R は、中央側装飾構成体 1 2 3 C の下端部の右側部に支持されている。左側装飾構成体 1 2 3 L は、その回転軸部 1 2 3 L J から左側へと延びていて、右側装飾構成体 1 2 3 R は、その回転軸部 1 2 3 R J から右側へと延びている。なお、左側装飾構成体 1 2 3 L 及び右側装飾構成体 1 2 3 R は、回転軸部 1 2 3 L J , 1 2 3 R J から離れるに従って幅広となる扇形状に形成されている。

30

【0035】

左側装飾構成体 1 2 3 L 及び右側装飾構成体 1 2 3 R の回転軸部 1 2 3 L J , 1 2 3 R J から離れた側の端部は、回動ベース 1 1 1 に支持されている。具体的には、回動ベース 1 1 1 の両側部（詳細には、回動横辺部 1 1 1 A の両側部）には、1 対の係合孔 1 2 4 , 1 2 4 が形成されている。左側の係合孔 1 2 4 には、左側装飾構成体 1 2 3 L に突設された係合突部 1 2 3 L T が係合している。右側の係合孔 1 2 4 には、右側装飾構成体 1 2 3 R に突設された係合突部 1 2 3 R T が係合している。各係合孔 1 2 4 は、回動横辺部 1 1 1 A の中央側へ下るように傾斜した傾斜部 1 2 4 A と、傾斜部 1 2 4 A の下端部から図 7 で示したガイド孔 1 1 2 G と平行に延びる直線部 1 2 4 B と、からなる。

40

【0036】

図 8（A）から図 8（B）への変化に示されるように、進退部材 1 2 1 が第 1 進退位置から第 2 進退位置側へ移動すると、左側装飾構成体 1 2 3 L の係合突部 1 2 3 L T が左側の係合孔 1 2 4 における傾斜部 1 2 4 A の内面によって右側に押され、左側装飾構成体 1 2 3 L が回転軸部 1 2 3 L J を中心にして時計方向に回転する。また、右側装飾構成体 1 2 3 R の係合突部 1 2 3 R T が右側の係合孔 1 2 4 における傾斜部 1 2 4 A の内面によって左側に押され、右側装飾構成体 1 2 3 R が回転軸部 1 2 3 R J を中心にして反時計方向

50

に回転する。その結果、左側装飾構成体 1 2 3 L の回転軸部 1 2 3 L J から離れた部分と右側装飾構成体 1 2 3 R の回転軸部 1 2 3 R J から離れた部分が中央側装飾構成体 1 2 3 C 側に寄せられる。このように、本実施形態では、進退部材 1 2 1 が第 2 進退位置へ向かうにつれて装飾部材 1 2 3 が窄まるように動作する。これにより、進退部材 1 2 1 の動作に躍動感を持たせることが可能となる。

【0037】

図 8 (B) から図 8 (C) への変化に示されるように、進退部材 1 2 1 が更に第 2 進退位置側へ移動すると、左側装飾構成体 1 2 3 L の係合突部 1 2 3 L T と右側装飾構成体 1 2 3 R の係合突部 1 2 3 R T が係合孔 1 2 4 の直線部 1 2 4 B に沿って移動し、左側装飾構成体 1 2 3 L、中央側装飾構成体 1 2 3 C 及び右側装飾構成体 1 2 3 R が一体となって第 2 進退位置側に直動する。なお、進退部材 1 2 1 が第 2 進退位置から第 1 進退位置へ移動するときには、装飾部材 1 2 3 の各装飾構成体 1 2 3 L, 1 2 3 C, 1 2 3 R は、図 8 (C) 図 8 (B) 図 8 (A) の変化に示されるように、上述とは逆の動きをする。

【0038】

図 9 に示されるように、進退部材 1 2 1 には、突出部材 1 3 0 が搭載されている。突出部材 1 3 0 は、進退部材 1 2 1 に重ねられる退避位置 (図 9 (A) 参照) と、進退部材 1 2 1 に対して第 2 進退位置側に突出する突出位置 (図 9 (B) 及び図 9 (C) 参照) と、の間を移動可能に構成されている。詳細には、突出部材 1 3 0 は、図 6 に示されるように、進退部材 1 2 1 のスライド部材 1 2 2 と装飾部材 1 2 3 の間に配置され、退避位置に配置されたときに、装飾部材 1 2 3 の後側に隠れ (図 6 (A) 参照)、突出位置に配置されたときに、装飾部材 1 2 3 から下側に突出する (図 6 (B) 参照)。

【0039】

本実施形態では、突出部材 1 3 0 が進退部材 1 2 1 の両側部に対をなして備えられている。左側の突出部材 1 3 0 は、進退部材 1 2 1 のスライド部材 1 2 2 の左下隅部に回転自在に支持され、右側の突出部材 1 3 0 は、スライド部材 1 2 2 の右下隅部に回転自在に支持されている。ここで、左側と右側の突出部材 1 3 0, 1 3 0 を左側突出部材 1 3 0 L、右側突出部材 1 3 0 R と称して区別すると、左側突出部材 1 3 0 L は、その回転軸部 1 3 0 L J から左上側へ扇形状に張り出した基幹部位 1 3 0 L A と、該基幹部位 1 3 0 L A の先端部から右側に翼状に張り出した先端張出部位 1 3 0 L B と、で構成されている。また、右側突出部材 1 3 0 R は、その回転軸部 1 3 0 R J から右上側へ扇形状に張り出した基幹部位 1 3 0 R A と、該基幹部位 1 3 0 R A から左側に翼状に張り出した先端張出部位 1 3 0 R B と、で構成されている。

【0040】

スライド部材 1 2 2 の左右中央寄り部分には、左側突出部材 1 3 0 L の回転軸部 1 3 0 L J を中心とした円弧状の左側ガイド孔 1 3 1 L と、右側突出部材 1 3 0 R の回転軸部 1 3 0 R J を中心とした円弧状の右側ガイド孔 1 3 1 R と、が形成されている。そして、左側ガイド孔 1 3 1 L に、左側突出部材 1 3 0 L の先端張出部位 1 3 0 L B から後側に突出した左側ガイド突部 1 3 2 L が係合することで、左側突出部材 1 3 0 L の回転の安定化が図られ、右側ガイド孔 1 3 1 R に、右側突出部材 1 3 0 R の先端張出部位 1 3 0 R B から後側に突出した右側ガイド突部 1 3 2 R が係合することで、右側突出部材 1 3 0 R の回転の安定化が図られている。

【0041】

左側突出部材 1 3 0 L と右側突出部材 1 3 0 R の基幹部位 1 3 0 L A, 1 3 0 R A は、回転ベース 1 1 1 の両側部に支持されている。具体的には、回転ベース 1 1 1 の両側部 (詳細には、1 対の回転縦辺部 1 1 1 B, 1 1 1 B の両側部) には、1 対の係合孔 1 3 4, 1 3 4 が形成されていて、左側の係合孔 1 3 4 に左側突出部材 1 3 0 L の基幹部位 1 3 0 L A に突設された係合突部 1 3 5 が係合し、右側の係合孔 1 3 4 に右側突出部材 1 3 0 R の基幹部位 1 3 0 R A に突設された係合突部 1 3 5 が係合している。1 対の係合孔 1 3 4, 1 3 4 は、回転ベース 1 1 1 の左右中央側へ下るように傾斜した傾斜部 1 3 4 A と、傾斜部 1 3 4 A の下端部から図 7 で示したガイド孔 1 1 2 G と平行に延びる直線部 1 3 4 B

と、からなる。

【0042】

図9(A)から図9(B)への変化に示されるように、進退部材121が第1進退位置から第2進退位置側へ移動すると、左側突出部材130Lの係合突部135が左側の係合孔134の傾斜部134Aにより右側に押されて、左側突出部材130Lが回動軸部130LJを中心にして時計方向に回転する。このとき、右側突出部材130Rの係合突部135が右側の係合孔134の傾斜部134Aにより左側に押されて、右側突出部材130Rが回動軸部130RJを中心にして反時計方向に回転する。その結果、左側突出部材130L及び右側突出部材130Rが、退避位置から突出位置へと移動し、進退部材121に対して第2進退位置側に突出する。このように、本実施形態では、進退部材121の第2進退位置側への移動に伴って突出部材130が進退部材121から突出する。これにより、進退部材121の動作に一層の躍動感を持たせることが可能となる。

10

【0043】

進退部材121が図9(B)に示される位置から更に第2進退位置側へ移動すると、左側突出部材130Lと右側突出部材130Rの係合突部135は係合孔134の直線部134Bに沿って移動し、左側突出部材130L及び右側突出部材130Rは、進退部材121と一体に第2進退位置側に直動する。なお、進退部材121が第2進退位置から第1進退位置へ移動するときには、左側突出部材130L及び右側突出部材130Rは、図9(C) 図9(B) 図9(A)の変化に示されるように、上述とは逆の動きをする。

【0044】

本実施形態の第1可動役物装置100では、進退部材121は、回動ベース111が停止しているときに駆動されてもよいし、図4(B)から図4(C)への変化に示されるように、回動ベース111が回動しているときに駆動されてもよい。後者の場合、回動ベース111が第2回動位置へ向かうときに、進退部材121が第1進退位置から第2進退位置へと駆動され、回動ベース111が第1回動位置へ向かうときに、進退部材121が第2進退位置から第1進退位置へと駆動されることが好ましい。このように進退部材121が駆動されると、回動ベース111の回動する方向に進退部材121が移動することになり、第1可動役物装置100の動作に躍動感を持たせることが可能となると共に、回動ベース111と進退部材121が回動ベース111の回動方向に伸縮するように見せることが可能となる。

20

30

【0045】

しかも、進退部材121が第2進退位置に配置されると、突出部材130が進退部材121に対して第2進退位置側に突出するので、第1可動役物装置100の動作に一層の躍動感を持たせることが可能となる。さらに、図8(B)から図8(C)への変化に示されるように、進退部材121が第2進退位置へ近づくときに、装飾部材123が進退部材121と一体に移動するので、進退部材121と装飾部材123の動作をダイナミックに見せることが可能となる。

【0046】

ところで、図8に示されるように、装飾部材123の装飾は、横方向で対をなすように形成されている。具体的には、中央側装飾構成体123Cのうち同図の一点鎖線より左側の部位は、一点鎖線より右側の部位を概ね左右逆にした形状になっていて、該右側の部位より若干大きくなっている。左側装飾構成体123Lは、右側装飾構成体123Rの形状を概ね左右逆にした形状になっていて、右側装飾構成体123Rより若干大きくなっている。また、進退部材121が第2進退位置に配置されたときに露出する回動ベース111の装飾プレート113の装飾も、横方向で対をなすように形成されている。装飾プレート113の装飾についても、同図の一点鎖線より左側の部位は、一点鎖線より右側の部位を概ね左右逆にした形状になっていて、該右側の部位より若干大きくなっている。

40

【0047】

このように、本実施形態の遊技機では、回動ベース111の装飾プレート113及び進退部材121の装飾部材123が横方向で対をなす形状に形成されていて、装飾プレート

50

1 1 3 及び装飾部材 1 2 3 のうち回動軸部 1 1 1 J から遠い側の部位（具体的には、図 8 の一点鎖線より左側の部位）が、装飾プレート 1 1 3 及び装飾部材 1 2 3 のうち回動軸部 1 1 1 J に近い側の部位（具体的には、図 8 の一点鎖線より右側の部位）より若干大きく形成されている。この構成によれば、回動ベース 1 1 1 及び進退部材 1 2 1 が回動軸部 1 1 1 J を中心にして回動したときに、回動ベース 1 1 1 及び進退部材 1 2 1 のうち回動軸部 1 1 1 J から遠い側の部位が近づいてくるように見せることが可能となり、回動ベース 1 1 1 と進退部材 1 2 1 に遠近感を持たせることが可能となる。

【 0 0 4 8 】

[第 2 可動役物装置 2 0 0]

図 1 0 に示されるように、第 2 可動役物装置 2 0 0 は、第 1 可動部 2 1 0 と第 2 可動部 2 2 0 を有する。第 1 可動部 2 1 0 は、横並びに配置された複数の第 1 可動体 2 1 1 を備えている。

10

【 0 0 4 9 】

図 1 0 (A) 図 1 0 (B) 図 1 0 (C) の変化に示されるように、第 1 可動部 2 1 0 は、上下方向に直動する横長の第 1 支持ベース 2 1 5 を有している。また、図 1 0 (B) から図 1 0 (C) への変化に示されるように、複数の第 1 可動体 2 1 1 は、第 1 支持ベース 2 1 5 に支持されて、第 1 支持ベース 2 1 5 の前側で前後方向に延びる軸を中心に回転可能となっている。

【 0 0 5 0 】

本実施形態の遊技機 1 0 では、第 1 可動体 2 1 1 が 2 つ設けられていて、左側の第 1 可動体 2 1 1 は、第 1 支持ベース 2 1 5 の左側部に支持され、右側の第 1 可動体 2 1 1 は、第 1 支持ベース 2 1 5 の右側部に支持されている。具体的には、左側の第 1 可動体 2 1 1 は、横辺部と該横辺部の左端部から下側へ延びる縦辺部とを有し、横辺部と縦辺部の交差部分に回動軸部 2 1 1 J を備える。右側の第 1 可動体 2 1 1 は、横辺部と該横辺部の右端部から下側へ延びる縦辺部とを有し、横辺部と縦辺部の交差部分に回動軸部 2 1 1 J を備える。以下では、左側の第 1 可動体 2 1 1 と右側の第 1 可動体 2 1 1 を、第 1 左側可動体 2 1 1 L と第 1 右側可動体 2 1 1 R と称して、適宜、区別することにする。

20

【 0 0 5 1 】

図 1 1 (A) に示されるように、第 1 可動体 2 1 1 は、後側構成体 2 1 2 の前面側に前側構成体 2 1 3 を重ねて固定してなる。後側構成体 2 1 2 は、第 1 支持ベース 2 1 5 に前側から重ねられる本体部 2 1 2 H と、本体部 2 1 2 H の下端部から後側に突出して第 1 支持ベース 2 1 5 を下側から覆う下端突壁 2 1 2 K と、を備えている。また、前側構成体 2 1 3 は、後側構成体 2 1 2 の本体部 2 1 2 H の前面に固定された本体部 2 1 3 H と、後側構成体 2 1 2 の下端突壁 2 1 2 K の下面に固定されて本体部 2 1 3 H の下端部に連絡した下端力パー部 2 1 3 K と、を備えている。前側構成体 2 1 3 の本体部 2 1 3 H は、後側構成体 2 1 2 の本体部 2 1 2 H よりも上側に飛び出ている。なお、本体部 2 1 3 H の前面には装飾が施されている。

30

【 0 0 5 2 】

第 1 支持ベース 2 1 5 は、後側構成体 2 1 2 の本体部 2 1 2 H に後側から重ねられて後側構成体 2 1 2 を回転自在に支持する本体部 2 1 5 H と、本体部 2 1 5 H の上端から前側に迫り出した上端突壁 2 1 5 J と、を備えている。詳細には、本体部 2 1 5 H は、後側構成体 2 1 2 の本体部 2 1 2 H より上側に飛び出して前側構成体 2 1 3 の本体部 2 1 3 H に後側から重ねられる。上端突壁 2 1 5 J は、前側構成体 2 1 3 の本体部 2 1 3 H に突き合わされて、後側構成壁 2 1 2 の本体部 2 1 2 H に上側から対向している。

40

【 0 0 5 3 】

図 1 3 (A) 及び図 1 3 (B) に示されるように、第 1 左側可動体 2 1 1 L と第 1 右側可動体 2 1 1 R は、回転自在に連結されている。そして、第 1 左側可動体 2 1 1 L と第 1 右側可動体 2 1 1 R とは、直線状に配置されて前側構成体 2 1 3 同士が繋がった直線状態（図 1 3 (A) 参照）と、下側が凸となる折れ線状に配置されて前側構成体 2 1 3 同士が分離した折曲状態（図 1 3 (B) 参照）と、に変化する。

50

【 0 0 5 4 】

具体的には、本実施形態では、第 1 右側可動体 2 1 1 R において、後側構成体 2 1 2 が前側構成体 2 1 3 より横長に形成されていて、後側構成体 2 1 2 と前側構成体 2 1 3 が右端を揃えて配置されている。後側構成体 2 1 2 のうち前側構成体 2 1 3 からはみ出た左端部には、左上がり延びる長孔 2 1 4 N が形成されている。また、第 1 左側可動体 2 1 1 L においては、前側構成体 2 1 3 が後側構成体 2 1 2 より横長に形成されていて、後側構成体 2 1 2 と前側構成体 2 1 3 が左端を揃えて配置されている。前側構成体 2 1 3 のうち後側構成体 2 1 2 からはみ出た右端部の後面には、長孔 2 1 4 N と係合する係合突起 2 1 4 T が突設されている。そして、長孔 2 1 4 N と係合突起 2 1 4 T の係合によって、第 1 左側可動体 2 1 1 L と第 1 右側可動体 2 1 1 R が回動自在に連結されている。なお、長孔 2 1 4 N が第 1 左側可動体 2 1 1 L に形成され、係合突起 2 1 4 T が第 1 右側可動体 2 1 1 R に形成されてもよい。

10

【 0 0 5 5 】

第 1 支持ベース 2 1 5 は、図 1 0 (A) に示される第 1 上端位置と図 1 0 (C) に示される第 1 下端位置との間を直動可能に構成されている。図 1 0 (A) に示されるように、第 1 支持ベース 2 1 5 は、第 1 上端位置に配置された状態で、機構枠 1 7 の上辺部 1 7 J に前側から重ねられる。このとき、第 1 左側可動体 2 1 1 L と第 1 右側可動体 2 1 1 R の各横辺部は、第 1 支持ベース 2 1 5 に沿って配置され、第 1 左側可動体 2 1 1 L と第 1 右側可動体 2 1 1 R の各縦辺部が機構枠 1 7 の側辺部 1 7 S に重ねられる。

20

【 0 0 5 6 】

図 1 0 (B) に示されるように、第 1 支持ベース 2 1 5 が第 1 上端位置から下方へ移動すると、第 1 支持ベース 2 1 5 が機構枠 1 7 の内側に配置される。このとき、図 1 6 (A) に示されるように、第 1 可動部 2 1 0 が表示画面 1 3 G に前側から重なる。

【 0 0 5 7 】

図 1 2 に示されるように、第 1 支持ベース 2 1 5 は、機構枠 1 7 の上辺部 1 7 J に取り付けられた第 1 駆動機構 2 3 0 によって駆動される。第 1 駆動機構 2 3 0 は、駆動源 2 3 1 と、駆動源 2 3 1 により駆動される回動レバー 2 3 4 と、を備えている。本実施形態では、回動レバー 2 3 4 は、横方向に対をなして設けられている。1 対の回動レバー 2 3 4 , 2 3 4 は、回動軸部 2 3 4 J を突き合わせるように配置されて、互いに逆方向に回動する。1 対の回動レバー 2 3 4 , 2 3 4 のうち一方の回動レバー 2 3 4 の中間部には、回動半径方向に延びた中間長孔 2 3 3 が形成されている。この中間長孔 2 3 3 には、駆動源 2 3 1 により駆動される中継ギア 2 3 2 に突設された回転突起部 2 3 2 T が係合している。また、1 対の回動レバー 2 3 4 , 2 3 4 のそれぞれの先端部は、第 1 支持ベース 2 1 5 の左右両端寄り部分に後側から重ねられる。具体的には、第 1 支持ベース 2 1 5 には、上端突壁 2 1 5 J の両側部から上側に突出する 1 対の突片 2 1 5 T , 2 1 5 T が設けられ、これら 1 対の突片 2 1 5 T , 2 1 5 T に 1 対の回動レバー 2 3 4 , 2 3 4 の先端部が重ねられる。突片 2 1 5 T には、横方向に延びる長孔 2 3 5 が形成されていて、この長孔 2 3 5 に、回動レバー 2 3 4 の先端部に突設された先端突起部 2 3 6 が係合している。中継ギア 2 3 2 が駆動されると、1 対の回動レバー 2 3 4 , 2 3 4 が回動し、第 1 支持ベース 2 1 5 が機構枠 1 7 に対して上下方向に直動する。

30

40

【 0 0 5 8 】

ここで、図 1 2 及び図 1 3 に示されるように、機構枠 1 7 の側辺部 1 7 S の前面側には、該側辺部 1 7 S との間に、第 1 支持ベース 2 1 5 及び第 1 可動部 2 1 0 (即ち、第 1 可動部 2 1 0) の側部を挟む挟み部 2 3 7 が取り付けられている。これにより、第 1 支持ベース 2 1 5 の前後方向の移動が規制されている。また、図 1 2 に示されるように、機構枠 1 7 の右側の側辺部 1 7 S には、上下方向に延びるガイドシャフト 2 3 8 が固定され、第 1 支持ベース 2 1 5 の右端部には、ガイドシャフト 2 3 8 が挿通される図示しないシャフト挿通孔が設けられている。これにより、第 1 支持ベース 2 1 5 の直動の安定化が図られている。

【 0 0 5 9 】

50

図 10 (A) ~ 図 10 (C) に示されるように、第 1 可動部 210 では、第 1 支持ベース 215 の移動に伴って、第 1 左側可動体 211 L 及び第 1 右側可動体 211 R が直線状態 (図 10 (B) に示す状態) と折曲状態 (図 10 (C) に示す状態) とに変化する。以下、第 1 可動部 210 の動作機構について説明する。

【0060】

図 12 に示されるように、機構枠 17 の左側の側辺部 17 S に取り付けられた挟み部 237 には、挟み部 237 を前後に貫通するガイド孔 251 が形成されている。ガイド孔 251 は、上下方向に直線状に延びる鉛直部 251 A と、鉛直部 251 の下端から右下方へ直線状に延びる誘導傾斜部 251 B と、からなる。図 13 に示されるように、ガイド孔 251 には、第 1 左側可動体 211 L に設けられたガイド突部 252 が係合している。詳細には、第 1 左側可動体 211 L は、その回動軸部 211 J から左上側に張り出して先端部がガイド孔 251 に重ねられる左側張出片 253 を有し、ガイド突部 252 は、左側張出片 253 の先端部から前側に突出している。

10

【0061】

また、図 12 に示されるように、機構枠 17 の右側の側辺部 17 S に取り付けられた挟み部 237 の前面には、左側を段付き状に陥没させる陥没部 256 が形成されている。陥没部 256 の内面のうち左側を向く部分は、前側から見て上下方向に直線状に延びる鉛直面 256 A と、鉛直面 256 A の下端から左下方へ直線状に延びる誘導傾斜面 256 B と、からなる。図 13 に示されるように、陥没部 256 には、第 1 右側可動体 211 R に設けられた摺動軸部 257 が受容されている。詳細には、第 1 右側可動体 211 R は、その回動軸部 211 J から右上側に張り出して先端部が陥没部 256 内に突入した右側張出片 258 を有し、摺動軸部 257 は、右側張出片 258 の先端部に突設されている。

20

【0062】

図 10 (A) から図 10 (B) への変化に示されるように、第 1 支持ベース 215 が第 1 上端位置から第 1 下端位置側へ移動すると、第 1 左側可動体 211 L のガイド突部 252 がガイド孔 251 の鉛直部 251 A に沿って移動し、第 1 右側可動体 211 R の摺動軸部 257 が陥没部 256 の鉛直面 256 A に沿って移動する。このとき、第 1 左側可動体 211 L 及び第 1 右側可動体 211 R は直線状態に保持されている。

【0063】

図 10 (B) から図 10 (C) への変化に示されるように、第 1 支持ベース 215 が第 1 下端位置に近づくと、図 13 (A) 及び図 13 (B) に拡大して示されるように、第 1 左側可動体 211 L のガイド突部 252 がガイド孔 251 の誘導傾斜部 251 B 内を移動する。すると、ガイド突部 252 が誘導傾斜部 251 B の内面に押されて、第 1 左側可動体 211 L がその回動軸部 211 J を中心に時計方向に回動する。また、このとき、第 1 右側可動体 211 R の摺動軸部 257 が陥没部 256 の誘導傾斜面 256 B に摺動する。すると、摺動軸部 257 が誘導傾斜面 256 B に押されて、第 1 右側可動体 211 R がその回動軸部 211 J を中心に反時計方向に回動する。その結果、第 1 左側可動体 211 L 及び第 1 右側可動体 211 R が、直線状態から折曲状態に変化する。

30

【0064】

このように、第 1 可動部 210 は、第 1 支持ベース 215 の上下方向の移動によって、全体が上下に移動する。そして、第 1 支持ベース 215 が第 1 上端位置に配置されると、第 1 可動部 210 は、複数の第 1 可動体 211 の前側構成体 213 が左右方向に沿って直線状に並べられた連結状態となり (図 10 (A) 参照)、第 1 支持ベース 215 が第 1 下端位置に配置されると、第 1 可動部 210 は、複数の第 1 可動体 211 の前側構成体 213 がバラバラに分断された分断状態となる。

40

【0065】

図 13 (B) から図 13 (A) への変化に示されるように、第 1 支持ベース 215 が第 1 下端位置から第 1 上端位置側へ移動すると、第 1 左側可動体 211 L のガイド突部 252 が誘導傾斜部 251 B の内面に押されて、第 1 左側可動体 211 L がその回動軸部 211 J を中心に反時計方向に回動する。ここで、第 1 左側可動体 211 L と第 1 右側可動体

50

2 1 1 R の横辺部同士は回転自在に連結されているので、第 1 左側可動体 2 1 1 L が反時計方向に回転すると、第 1 右側可動体 2 1 1 R が時計方向に回転する。その結果、第 1 左側可動体 2 1 1 L 及び第 1 右側可動体 2 1 1 R が、折曲状態から直線状態に変化する。なお、第 1 支持ベース 2 1 5 の左端部には、第 1 左側可動体 2 1 1 L を反時計方向に付勢する付勢バネ 2 5 4 が備えられ、第 1 支持ベース 2 1 5 の右端部には、第 1 右側可動体 2 1 1 R を時計方向に付勢する付勢バネ 2 5 9 が備えられている。

【0066】

図 10 に示されるように、第 2 可動部 2 2 0 は、第 1 可動部 2 1 0 に下方から対向し、横並びに配置された複数の第 2 可動体 2 2 1 を備えている。

【0067】

図 10 (A) 図 10 (B) 図 10 (C) の変化に示されるように、第 2 可動部 2 2 0 は、上下方向に直動する横長の第 2 支持ベース 2 2 5 を有している。また、図 10 (B) から図 10 (C) への変化に示されるように、複数の第 2 可動体 2 2 1 は、第 2 支持ベース 2 2 5 に支持されて、第 2 支持ベース 2 2 5 の前側で前後方向に延びる軸を中心に回転可能となっている。

【0068】

本実施形態の遊技機 10 では、第 2 可動体 2 2 1 が 3 つ設けられていて、左側の第 2 可動体 2 2 1 は、第 2 支持ベース 2 2 5 の左側部に支持され、中央側の第 2 可動体 2 2 1 は、第 2 支持ベース 2 2 5 の左右中央部に支持され、右側の第 2 可動体 2 2 1 は、第 2 支持ベース 2 2 5 の右側部に支持されている。具体的には、左側の第 2 可動体 2 2 1 は、横辺部と該横辺部の左端部から上側へ延びる縦辺部とを有し、横辺部と縦辺部の交差部分に回転軸部 2 2 1 J を備える。中央側の第 2 可動体 2 2 1 は、横辺部のみを有し、該横辺部の右側部に回転軸部 2 2 1 J を備える。右側の第 2 可動体 2 2 1 は、横辺部と該横辺部の右端部から上側へ延びる縦辺部とを有し、横辺部と縦辺部の交差部分に回転軸部 2 2 1 J を備える。以下では、左側の第 2 可動体 2 2 1 と中央側の第 2 可動体 2 2 1 と右側の第 2 可動体 2 2 1 を、第 2 左側可動体 2 2 1 L と第 2 中央可動体 2 2 1 C と第 2 右側可動体 2 2 1 R と称して、適宜、区別することにする。

【0069】

図 11 (B) に示されるように、第 2 可動体 2 2 1 は、後側構成体 2 2 2 の前面側に前側構成体 2 2 3 を重ねて固定してなる。後側構成体 2 2 2 は、第 2 支持ベース 2 2 5 に前側から重ねられる本体部 2 2 2 H と、本体部 2 2 2 H の上端部から後側に突出して第 2 支持ベース 2 2 5 を上側から覆う上端突壁 2 2 2 J と、を備えている。また、前側構成体 2 2 3 は、後側構成体 2 2 2 の本体部 2 2 2 H の前面に固定された本体部 2 2 3 H と、後側構成体 2 2 2 の上端突壁 2 2 2 J の上面に固定されて本体部 2 2 3 H の上端部に連絡した上端カバー部 2 2 3 J と、を備えている。前側構成体 2 2 3 の本体部 2 2 3 H は、後側構成体 2 2 2 の本体部 2 2 2 H よりも下側に飛び出ている。なお、本体部 2 2 3 H の前面には装飾が施されている。

【0070】

第 2 支持ベース 2 2 5 は、後側構成体 2 2 2 の本体部 2 2 2 H に後側から重ねられて後側構成体 2 2 2 を回転自在に支持する本体部 2 2 5 H と、本体部 2 2 5 H の下端から前側に迫り出した下端突壁 2 2 5 K と、を備えている。詳細には、本体部 2 2 5 H は、後側構成体 2 2 2 の本体部 2 2 2 H より下側に飛び出して前側構成体 2 2 3 の本体部 2 2 3 H に後側から重ねられる。下端突壁 2 2 5 K は、前側構成体 2 2 3 の本体部 2 2 3 H に突き合わされて、後側構成壁 2 2 2 の本体部 2 2 2 H に下側から対向している。

【0071】

図 15 (A) 及び図 15 (B) に示されるように、第 2 左側可動体 2 2 1 L と第 2 中央可動体 2 2 1 C は、回転自在に連結されている。そして、第 2 左側可動体 2 2 1 L と第 2 中央可動体 2 2 1 C とは、直線状に配置されて前側構成体 2 2 3 同士が繋がった直線状態 (図 15 (A) 参照) と、上側が凸となる折れ線状に配置されて前側構成体 2 2 3 同士が分離した折曲状態 (図 15 (B) 参照) と、に変化する。

10

20

30

40

50

【0072】

具体的には、本実施形態では、第2左側可動体221Lにおいて、後側構成体222が前側構成体223より横長に形成されていて、後側構成体222と前側構成体223が左端を揃えて配置されている。後側構成体222のうち前側構成体223からはみ出た右端部には、右下がり延びる長孔224Nが形成されている。また、第2中央可動体221Cにおいて、前側構成体223が後側構成体222より横長に形成されていて、後側構成体222と前側構成体223が右端を揃えて配置されている。前側構成体223のうち後側構成体222からはみ出た左端部の後面には、長孔224Nと係合する係合突起224Tが突設されている。そして、長孔224Nと係合突起224Tの係合によって、第2左側可動体221Lと第2中央可動体221Cが回動自在に連結されている。なお、長孔224Nが第2中央可動体221Cに形成され、係合突起224Tが第2左側可動体221Lに形成されてもよい。

10

【0073】

第2支持ベース225は、図10(A)に示される第2下端位置と図10(C)に示される第2上端位置との間を直動可能に構成されている。図10(A)に示されるように、第2支持ベース225は、第2下端位置に配置された状態で、機構枠17の下辺部17Kに前側から重ねられる。このとき、第2左側可動体221L、第2中央可動体221C及び第2右側可動体221Rの各横辺部は、第2支持ベース225に沿って配置され、第2左側可動体221Lと第2右側可動体221Rの各縦辺部が機構枠17の側辺部17Sに重ねられる。なお、第2支持ベース225及び第2可動部220(即ち、第2可動部220)の側部は、機構枠17の側辺部17Sと上述した挟み部237との間に挟まれていて、これにより、第2支持ベース225の前後方向の移動が規制されている。

20

【0074】

図10(B)に示されるように、第2支持ベース225が第2下端位置から上方へ移動すると、第2支持ベース225が機構枠17の内側に配置される。このとき、図16(A)に示されるように、第2可動部220が表示画面13Gに前側から重なる。

【0075】

図14に示されるように、第2支持ベース225は、機構枠17の各側辺部17Sに取り付けられた第2駆動機構240によって駆動される。第2駆動機構240は、駆動源241と、駆動源241によって駆動されるピニオン242と、を備える。駆動源241は、上述した挟み部273の前面に固定され、駆動源241の回転出力軸は、挟み部273を前後に貫通する。ピニオン242は、側辺部17Sと挟み部273との間で、駆動源241の回転出力軸に取り付けられている。ピニオン242には、第2支持ベース225の各側部に設けられたラック244が噛合する。具体的には、第2支持ベース225の両側部には、上方へ直線状に延びる1対のサイド突壁243、243が設けられていて、それら1対のサイド突壁243、243の互いの対向面にラック244、244が形成されている。また、機構枠17の側辺部17Sには、上下方向に延びる長孔245Nが形成されていて、その長孔245Nにサイド突壁243から後側に突出する突部245Tが係合することで、第2支持ベース225の移動の安定化が図られている。

30

【0076】

図10(A)~図10(C)に示されるように、第2可動部220では、第2支持ベース225の移動に伴って、第2左側可動体221L及び第2中央可動体221Cが直線状態(図10(B)に示す状態)と折曲状態(図10(C)に示す状態)とに変化し、第2右側可動体221Rが回動する。以下、第2可動部220の動作機構について説明する。

40

【0077】

図15に示されるように、機構枠17の1対の側辺部17S、17Sに取り付けられた1対の挟み部237、237の互いの対向面には、1対のガイド面261、261が形成されている。各ガイド面261は、前側から見て上下方向に直線状に延びる鉛直面261Aと、鉛直面261Aの上端から左右中央側へ直線状に延びる誘導傾斜面261Bと、からなる。左側のガイド面261の誘導傾斜面261Bには、第2左側可動体221Lに設

50

けられた摺動突部 2 6 2 が下方から対向する。右側のガイド面 2 6 1 の誘導傾斜面 2 6 1 B には、第 2 右側可動体 2 2 1 R に設けられた摺動突部 2 6 2 が下方から対向する。なお、第 2 左側可動体 2 2 1 L においては、回動軸部 2 2 1 J から左下に張り出した張出片 2 6 3 に摺動突部 2 6 2 が突設されている。また、第 2 右側可動体 2 2 1 R においては、回動軸部 2 2 1 J から右下に張り出した張出片 2 6 3 に摺動突部 2 6 2 が突設されている。

【0078】

図 10 (A) から図 10 (B) への変化に示されるように、第 2 支持ベース 2 2 5 が第 2 下端位置から第 2 上端位置側へ移動すると、第 2 左側可動体 2 2 1 L の摺動突部 2 6 2 が左側の挟み部 2 7 3 におけるガイド面 2 6 1 の鉛直面 2 6 1 A に沿って移動し、第 2 右側可動体 2 2 1 R の摺動軸部 2 6 2 が右側の挟み部 2 7 3 におけるガイド面 2 6 1 の鉛直
10
面 2 6 1 A に沿って移動する。このとき、第 2 左側可動体 2 2 1 L 及び第 2 中央可動体 2 2 1 C は直線状態に保持され、第 2 右側可動体 2 2 1 R の横辺部は第 2 支持ベース 2 2 5 に沿って水平に配置されている。

【0079】

図 10 (B) から図 10 (C) への変化に示されるように、第 2 支持ベース 2 2 5 が第 2 上端位置に近づくと、図 15 (A) 及び図 15 (B) に拡大して示されるように、第 2 左側可動体 2 2 1 L の摺動突部 2 6 2 が左側の挟み部 2 7 3 におけるガイド面 2 6 1 の誘導傾斜面 2 6 1 B に摺動する。すると、該摺動軸部 2 6 2 が誘導傾斜面 2 6 1 B に押されて、第 2 左側可動体 2 2 1 L がその回動軸部 2 2 1 J を中心に反時計方向に回動する。第 2 左側可動体 2 2 1 L が回動すると、第 2 中央可動体 2 2 1 C の左側部が持ち上げられ、
20
第 2 左側可動体 2 2 1 L 及び第 2 中央可動体 2 2 1 C が、直線状態から折曲状態に変化する。

【0080】

また、第 2 支持ベース 2 2 5 が第 2 上端位置に近づくと、第 2 右側可動体 2 2 1 R の摺動軸部 2 6 2 が右側の挟み部 2 7 3 におけるガイド面 2 6 1 の誘導傾斜面 2 6 1 B に摺動する。すると、該摺動軸部 2 6 2 が誘導傾斜面 2 6 1 B に押されて、第 2 右側可動体 2 2 1 R がその回動軸部 2 2 1 J を中心に時計方向に回動する。なお、第 2 支持ベース 2 2 5 (詳細には、本体部 2 2 5 H) には、第 2 右側可動体 2 2 1 R の回動軸部 2 2 1 J を中心とした円弧状をなす支持孔 2 6 4 A が形成されている。そして、この支持孔 2 6 4 A に、
30
第 2 右側可動体 2 2 1 R の横辺部に設けられた支持突部 2 6 4 T が係合することで、第 2 右側可動体 2 2 1 R の回動の安定化が図られている。

【0081】

このように、第 2 可動部 2 2 0 は、第 2 支持ベース 2 2 5 の上下方向の移動によって、全体が上下に移動する。そして、第 2 支持ベース 2 2 5 が第 2 下端位置に配置されると、第 2 可動部 2 2 0 は、複数の第 2 可動体 2 2 1 の前側構成体 2 2 3 が左右方向に沿って直線状に並べられた連結状態となり(図 10 (A) 参照)、第 2 支持ベース 2 2 5 が第 2 上端位置に配置されると、第 2 可動部 2 2 0 は、複数の第 2 可動体 2 2 1 の前側構成体 2 2 3 がバラバラに分断された分断状態となる。

【0082】

ところで、第 2 左側可動体 2 2 1 L は、自重によって時計方向に付勢され、第 2 右側可動体 2 2 1 R は、自重によって反時計方向に付勢されている。従って、第 2 左側可動体 2 2 1 L と第 2 右側可動体 2 2 1 R の摺動軸部 2 6 2 がガイド面 2 6 1 の誘導傾斜面 2 6 1 B と当接した状態では、第 2 左側可動体 2 2 1 L と第 2 右側可動体 2 2 1 R は、付勢力に抗した力を誘導傾斜面 2 6 1 B から受けていることになる。従って、図 15 (B) から図 15 (A) への変化に示されるように、第 2 支持ベース 2 2 5 が第 2 上端位置から第 2 下端位置側へ移動すると、第 2 左側可動体 2 2 1 L と第 2 右側可動体 2 2 1 R の摺動軸部 2 6 2 が誘導傾斜面 2 6 1 B から離れるように移動することとなり、第 2 左側可動体 2 2 1 L が自重によって時計方向に回動し、第 2 右側可動体 2 2 1 R が自重によって反時計方向に回動する。ここで、第 2 左側可動体 2 2 1 L と第 2 中央可動体 2 2 1 C の横辺部同士は回
40
転自在に連結されているので、第 2 左側可動体 2 2 1 L が時計方向に回動すると、第 2
50

中央可動体 2 2 1 C が反時計方向に回転する。その結果、第 2 左側可動体 2 2 1 L 及び第 2 中央可動体 2 2 1 C が、折曲状態から直線状態に変化する。

【0083】

本実施形態の遊技機 10 では、図 16 (A) ~ 図 16 (C) の流れに示されるように、第 2 可動役物装置 200 の動作に上述した第 1 可動役物装置 100 の動作が複合した複合役物演出が行われてもよい。具体的には、複合役物演出では、まず、図 16 (A) に示されるように、第 2 可動役物装置 200 において、第 1 可動部 210 と第 2 可動部 220 が互いに接近する。この接近は、図 10 (A) から図 10 (B) への流れで示した第 1 支持ベース 215 と第 2 支持ベース 225 の移動により行われる。

【0084】

第 1 可動部 210 と第 2 可動部 220 が接近すると、第 1 可動部 210 及び第 2 可動部 220 が表示画面 13G の前側に配置される。その結果、表示画面 13G のうち第 1 可動部 210 と第 2 可動部 220 の間から視認可能な領域が上下に狭まる。このとき、表示画面 13G において第 1 可動部 210 と第 2 可動部 220 の間から視認可能な領域に表示される画像が、第 1 可動部 210 と第 2 可動部 220 の接近に伴って上下に圧縮される。また、表示画面 13G において第 1 可動部 210 の上側から視認可能な領域と第 2 可動部 220 の下側から視認可能な領域が暗くなる。

【0085】

図 16 (A) から図 16 (B) の流れに示されるように、第 1 可動部 210 と第 2 可動部 220 がさらに接近すると、第 1 可動部 210 と第 2 可動部 220 が連結状態から分断状態に変化する。このとき、表示画面 13G において第 1 可動部 210 と第 2 可動部 220 の間から視認可能な領域には、その全体に亀裂が入った画像が表示される。このように、本実施形態では、第 1 可動部 210 と第 2 可動部 220 の動作と表示画面 13G の画像が連動することで、表示画面 13G が割れるように見せることが可能となる。

【0086】

図 16 (B) から図 16 (C) の流れに示されるように、複合役物演出では、さらに、第 1 可動役物装置 100 において、回転ベース 111 が第 1 回転位置から第 2 回転位置へと回転すると共に、進退部材 121 が第 1 進退位置から第 2 進退位置へと移動する。すると、第 1 可動役物装置 100 の移動演出部 110 が第 2 可動役物装置 200 の第 1 可動部 210 と第 2 可動部 220 の前側に配置される。ここで、回転ベース 111 の装飾プレート 113 と進退部材 121 の装飾部材 123 には、例えば、獣や化け物の顔の装飾が施されていて、進退部材 121 から突出する突出部材 130 は、牙を象った形状となっている。これにより、第 1 可動役物装置 100 の移動演出部 110 が模した獣や化け物が表示画面 13G を噛み砕いているように見せることが可能となる。

【0087】

以下、本実施形態の遊技機 10 から抽出される発明群の特徴について、必要に応じて効果等を示しつつ説明する。なお、以下では、理解の容易のため、上記実施形態において対応する構成を括弧書き等で適宜示すが、この括弧書き等で示した具体的構成に限定されるものではない。

【0088】

< 特徴 A 群 >

以下の特徴 A 群は、「可動役物装置を備えた」遊技機に関し、「特許文献 A (特開 2008-104637 号 (段落 [0131] ~ [0132]、図 11、図 15)) の遊技機では、可動役物装置が、前後方向に沿った回転軸を中心として回転可能な回転部材を備えている。」という背景技術について、「特許文献 A の遊技機では、可動役物装置の動作が単純で興趣に欠ける。」という課題をもってなされたものである。

【0089】

[特徴 A 1]

可動役物装置 (第 1 可動役物装置 100) を備えた遊技機 (遊技機 10) において、前記可動役物装置は、

10

20

30

40

50

前後方向に沿った回動軸（回動軸部 1 1 1 J）を中心として回動可能に支持されて第 1 回動位置（図 4（A）に示される回動ベース 1 1 1 の位置）と第 2 回動位置（図 4（B）に示される回動ベース 1 1 1 の位置）の間を移動可能な回動部材（回動ベース 1 1 1）と、

前記回動部材に搭載されて前記回動部材の回動方向に進退可能であって前記第 1 回動位置側の第 1 進退位置（図 6（A）に示される進退部材 1 2 1 の位置）と前記第 2 回動位置側の第 2 進退位置（図 6（B）に示される進退部材 1 2 1 の位置）との間を移動可能な進退部材（進退部材 1 2 1）と、を有する、遊技機。

【0090】

本特徴に示す構成では、回動部材が第 1 回動位置から第 2 回動位置へ回動するときに、その回動部材に搭載された進退部材がさらに回動部材の回動方向に移動可能となる。本特徴の構成によれば、回動部材と進退部材の動きの組合せにより、可動役物装置の動作に躍動感を持たせることが可能となり、可動役物装置の動作の趣向性向上が図られる。

【0091】

[特徴 A 2]

前記可動役物装置は、

前記進退部材に搭載されて前記進退部材の進退方向に沿って移動可能に支持されると共に、前記進退部材に重ねられる退避位置（図 6（A）に示される突出部材 1 3 0 の位置）と前記進退部材から前記第 2 進退位置側に突出する突出位置（図 6（B）に示される突出部材 1 3 0 の位置）との間を移動可能な突出部材（突出部材 1 3 0）をさらに有し、

前記突出部材は、前記進退部材の前記第 1 進退位置から前記第 2 進退位置への移動に伴って前記退避位置から前記突出位置に移動する、特徴 A 1 に記載の遊技機。

【0092】

本特徴に示す構成では、進退部材が第 2 進退位置に配置されたときに、進退部材に搭載された突出部材が進退部材から第 2 進退位置側に突出するので、可動役物装置の動作に一層の躍動感を持たせることが可能となり、可動役物装置の動作の趣向性を更なる向上が図られる。

【0093】

[特徴 A 3]

前記突出部材は、前記退避位置に配置されたときに前記進退部材に前側を覆われる、特徴 A 2 に記載の遊技機。

【0094】

本特徴に示す構成では、突出部材は、進退部材から突出したときに遊技者に視認可能となるので、遊技者に意外性を付与可能となる。

【0095】

[特徴 A 4]

前記突出部材は、前記進退部材に回転自在に支持され、その回転中心（回動軸部 1 3 0 L J , 1 3 0 R J）から離れた部位（係合突部 1 3 5 , 1 3 5）が前記進退部材の移動に伴って前記回動部材に摺接することで回転するように構成された、特徴 A 2 又は A 3 に記載の遊技機。

【0096】

本特徴に示す構成によれば、突出部材用の駆動源を進退部材に設けることなく進退部材の移動に伴って突出部材を移動させることが可能となる。

【0097】

[特徴 A 5]

前記突出位置は、前記進退部材がその移動ストロークの途中位置より前記第 2 進退位置側を移動するときに、前記進退部材と一体になって前記回動部材の回動方向に移動する、特徴 A 4 に記載の遊技機。

【0098】

本特徴に示す構成では、進退部材が第 2 進退位置へ近づくとともに、進退部材と突出部材

10

20

30

40

50

が回動部材から一体的に突出するので、進退部材と突出部材の動作をダイナミックに見せることが可能となる。

【 0 0 9 9 】

[特徴 A 6]

前記回動部材の前記回動軸は、前記回動部材において、前記第 2 回動位置側であって前記回動部材の回動方向と直交する方向の片側に寄せて配置されている、特徴 A 1 乃至 5 のうち何れか 1 に記載の遊技機。

【 0 1 0 0 】

本特徴に示す構成によれば、第 2 回動位置へと向かう回動部材を傾くように見せることが可能となる。

10

【 0 1 0 1 】

[特徴 A 7]

前記回動部材及び前記進退部材には、前記回動部材の回動方向と直交する方向で対をなす 1 対の装飾部（装飾プレート 1 1 3 及び装飾部材 1 2 3 における図 8 に示される一点鎖線より左側の部位と、同図の一点鎖線より右側の部位）が設けられ、

前記 1 対の装飾部のうち前記回動部材の前記回動軸から遠い側の装飾部（図 8 に示される一点鎖線より左側の部位）は、該回動軸から近い側の装飾部（図 8 に示される一点鎖線より右側の部位）より大きく形成されている、特徴 A 6 に記載の遊技機。

【 0 1 0 2 】

本特徴に示す構成では、回動部材と進退部材に設けられた 1 対の装飾部が回動部材の回動軸から遠い方が大きく形成されているので、回動部材と進退部材に遠近感を持たせることが可能となる。

20

【 0 1 0 3 】

[特徴 A 8]

可動役物装置（第 1 可動役物装置 1 0 0 ）を備えた遊技機（遊技機 1 0 ）において、前記可動役物装置は、

第 1 装飾部（装飾プレート 1 1 3 ）を備えると共に、前後方向に沿った回動軸（回動軸部 1 1 1 J ）を中心として回動可能に支持されて第 1 回動位置（図 4（A）に示される回動ベース 1 1 1 の位置）と第 2 回動位置（図 4（B）に示される回動ベース 1 1 1 の位置）の間を移動可能な回動部材（回動ベース 1 1 1 ）と、

30

第 2 装飾部（装飾部材 1 2 3 ）を備えると共に、前記回動部材に搭載されて前記回動部材の回動方向に進退可能であって前記第 1 回動位置側の第 1 進退位置（図 6（A）に示される進退部材 1 2 1 の位置）と前記第 2 回動位置側の第 2 進退位置（図 6（B）に示される進退部材 1 2 1 の位置）との間を移動可能な進退部材（進退部材 1 2 1 ）と、を有し、

前記回動部材に備えた前記第 1 装飾部は、前記進退部材が前記第 1 進退位置に配置されたときに前記進退部材の前記第 2 装飾部に前側を覆われ、前記進退部材が前記第 2 進退位置に配置されたときに前記進退部材の外側に露出する、遊技機。

【 0 1 0 4 】

本特徴に示す構成では、回動部材が第 1 回動位置から第 2 回動位置へ回動するときに、その回動部材に搭載された進退部材がさらに回動部材の回動方向に移動可能となる。本特徴の構成によれば、回動部材と進退部材の動きの組合せにより、可動役物装置の動作に躍動感を持たせることが可能となり、可動役物装置の動作の趣向性向上が図られる。しかも、本特徴の構成では、進退部材が第 2 進退位置へ移動すると、回動部材に備えた第 1 装飾部が露出するので、遊技者に意外性を与えることができると共に、可動役物装置の動作を遊技者に認識させ易くなる。

40

【 0 1 0 5 】

[特徴 A 9]

前記第 2 装飾部は、前記第 2 進退位置側を中心（回転軸部 1 2 3 L J , 1 2 3 R J ）として扇状に並べられた複数の装飾部構成体（左側装飾構成体 1 2 3 L 、中央側装飾構成体 1 2 3 C 及び右側装飾構成体 1 2 3 R ）からなり、

50

前記複数の装飾部構成体は、前記進退部材が前記第１進退位置から前記第２進退位置へ向かうにつれて前記第１進退位置側が互いに近づくように寄せられる、特徴Ａ８に記載の遊技機。

【０１０６】

本特徴に示す構成では、進退部材が第２進退位置へ向かうにつれて第２装飾部が窄まるように見せることで、進退部材の動作自体にも躍動感を持たせることが可能となる。

【０１０７】

[特徴Ａ１０]

可動役物装置（第１可動役物装置１００）を備えた遊技機（遊技機１０）において、前記可動役物装置は、

前後方向に沿った回動軸（回動軸部１１１Ｊ）を中心として回動可能に支持され、その回動に伴って回動方向に伸縮可能な移動演出部（移動演出部１１０）を有する、遊技機。

【０１０８】

本特徴に示す構成では、回動と伸縮の組合せにより、可動役物装置の動作に躍動感を持たせることが可能となり、可動役物装置の動作の趣向性向上が図られる。

【０１０９】

なお、特徴Ａ８又はＡ９に示す構成に、特徴Ａ３～Ａ７に示す構成が組み合わされてもよい。また、特徴Ａ１０に示す構成に、特徴Ａ１～Ａ９に示す構成が組み合わされてもよい。

【０１１０】

[特徴Ａ群に含まれる他の実施形態]

特徴Ａ群には、上記実施形態の他に、例えば、以下に示される実施形態も含まれる。

【０１１１】

（ａ１）進退部材１２１は、回動ベース１１１が第２回動位置へ向かうときに、第１回動位置側へ移動してもよい。

【０１１２】

（ａ２）特徴Ａ１，Ａ８～Ａ１０に含まれる形態では、突出部材１３０を備えない構成であってもよい。

【０１１３】

（ａ３）突出部材１３０は、進退部材１２１に直動自在に支持されて、進退部材１２１に対して直動して突出位置に配置される構成であってもよい。具体的には、図１７（Ａ）及び１７（Ｂ）に示されるように、突出部材１３０を進退部材１２１に直動可能に支持すると共に、上記実施形態における直動駆動機構１１５の回動レバー１１７に替えて、回動レバー１１１を先端側に長くした回動レバー１１７Ｖを備えた構成とすればよい。回動レバー１１７Ｖは、長手方向の中間部に第１長孔１１８Ａを備え、先端部に第２長孔１１８Ｂを備えている。そして、第１長孔１１８Ａにスライド部材１２２のガイド突部１２２Ｇが係合し、第２長孔１１８Ｂに突出部材１３０のガイド突部１３０Ｇが係合している。また、回動ベース１１１の後壁１１２Ｂには、スライド部材１２２のガイド突部１２２Ｇをガイドする第１ガイド孔１１２ＧＡが形成されると共に、突出部材１３０のガイド突部１３０Ｇをガイドする第２ガイド孔１１２ＧＢが形成されている。このような構成とすることで、図１７（Ａ）から図１７（Ｂ）の変化に示されるように、回動レバー１１７Ｖの回転によって、進退部材１２１を突出位置に直動させると共に、突出部材１３０を進退部材１２１に対して直動させ、突出位置に配置することができる。なお、図１７では、突出部材１３０が１つだけの構成となっている。

【０１１４】

（ａ４）突出部材１３０は、退避位置に配置された状態で、遊技者に視認可能であってもよい。具体的には、突出部材１３０を、進退部材１２１の装飾部１２３より前側に配置すればよい。

【０１１５】

（ａ５）進退部材１２１が第２進退位置に配置されたときに、装飾部材１２３と突出部

10

20

30

40

50

材 1 3 0 の両方が視認困難な構成であってもよい。具体的には、装飾部材 1 2 3 及び突出部材 1 3 0 を、回動ベース 1 1 1 の後壁 1 1 2 B より前側、且つ、装飾プレート 1 1 3 より後側に配置すればよい。

【 0 1 1 6 】

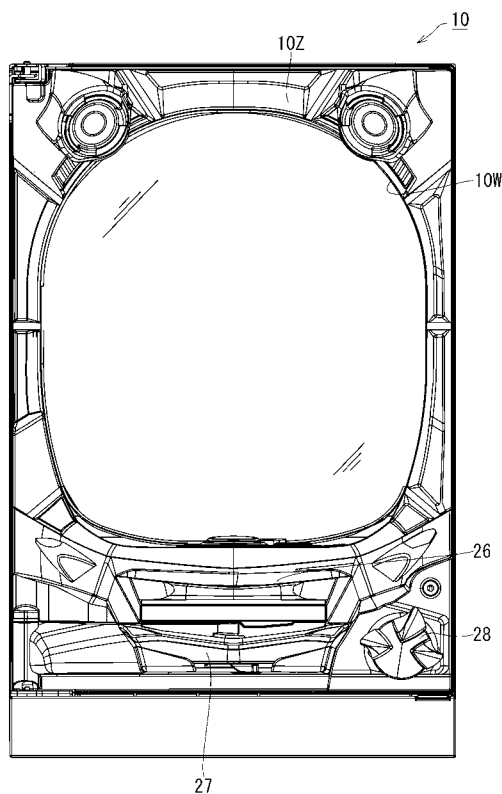
(a 6) 上記実施形態において、遊技盤 1 1 の前面に沿って移動する移動ベースに回動ベース 1 1 1 が回動可能に支持された構成であってもよい。

【 符号の説明 】

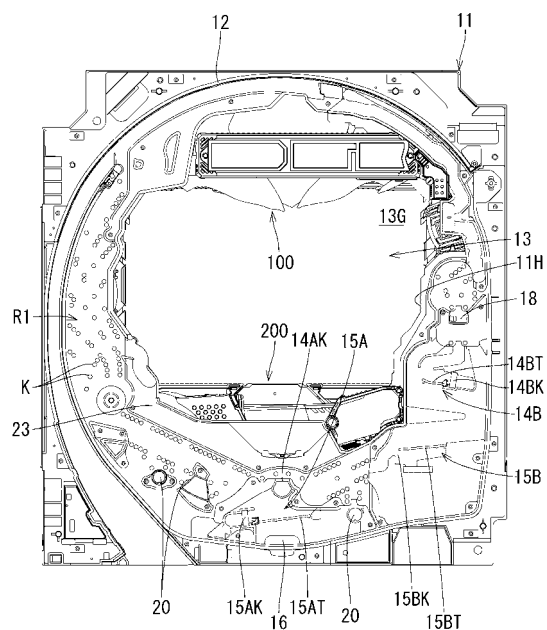
【 0 1 1 7 】

1 0	遊技機	
1 0 0	第 1 可動役物装置	10
1 0 1	固定ベース	
1 1 0	移動演出部	
1 1 1	回動ベース	
1 1 1 J	回転軸部	
1 2 1	進退部材	
1 3 0	突出部材	
2 0 0	第 2 可動役物装置	
2 1 0	第 1 可動部	
2 1 1	第 1 可動体	
2 2 0	第 2 可動部	20
2 2 1	第 2 可動体	

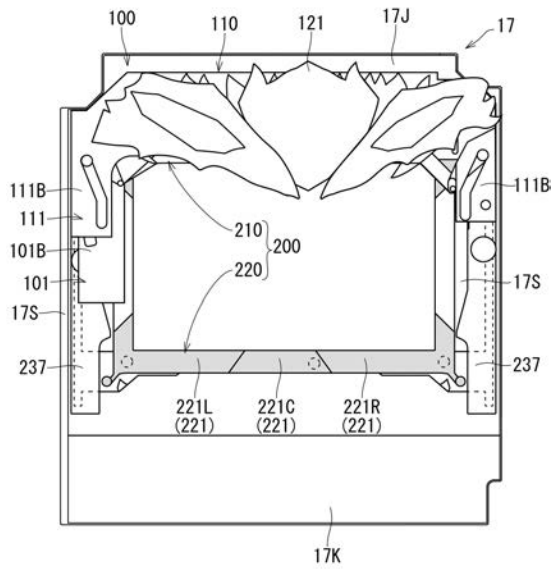
【 図 1 】



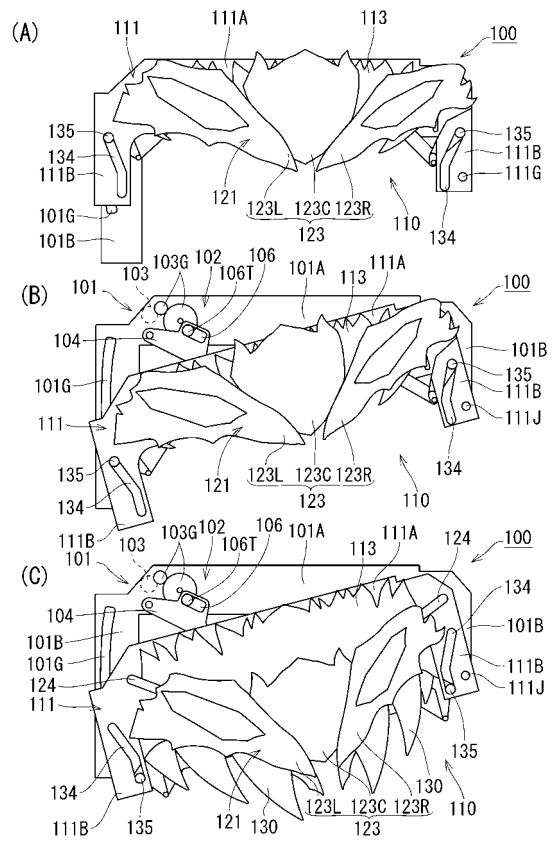
【 図 2 】



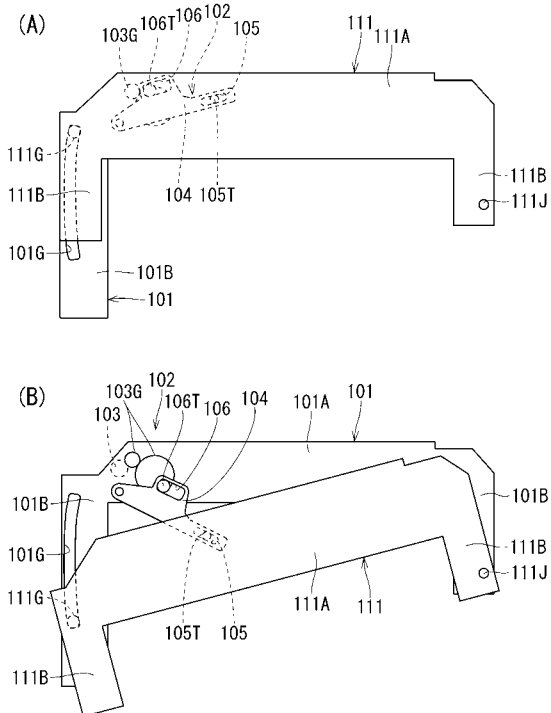
【図 3】



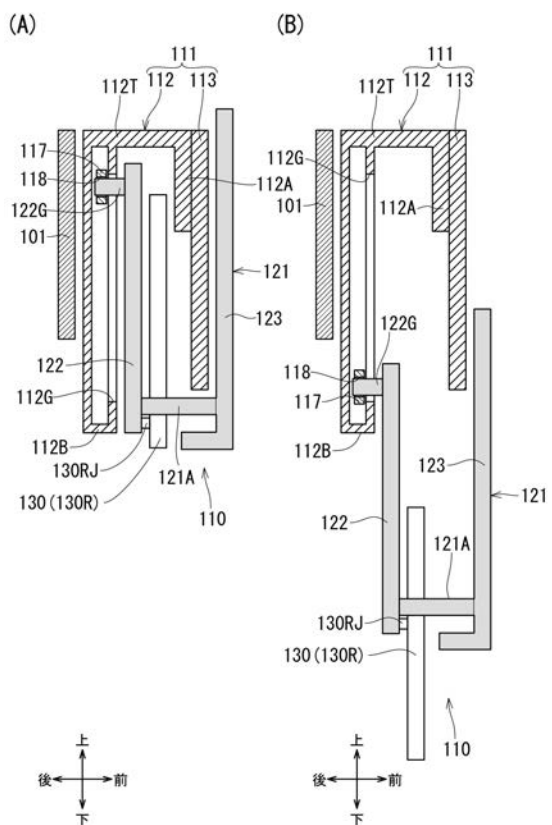
【図 4】



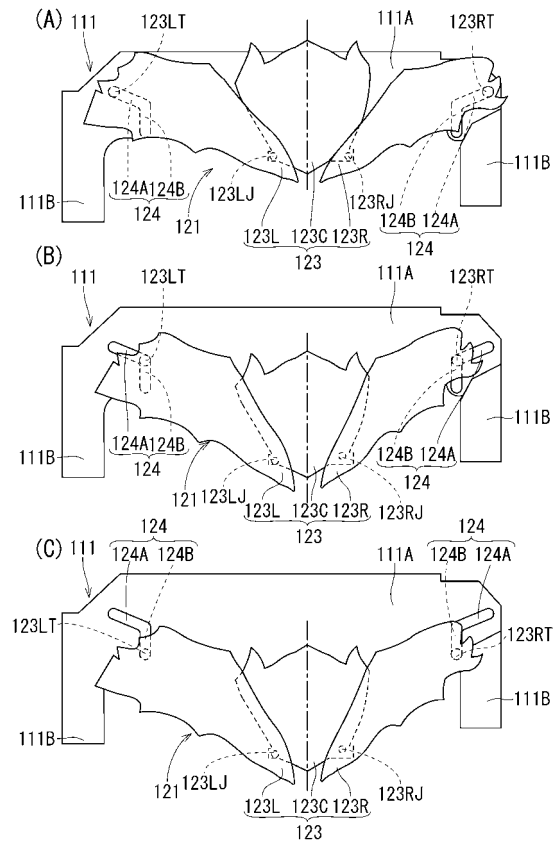
【図 5】



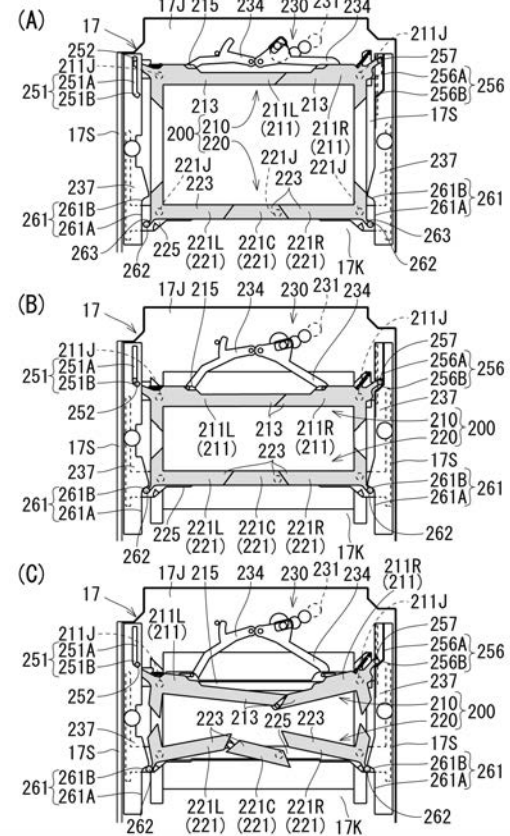
【図 6】



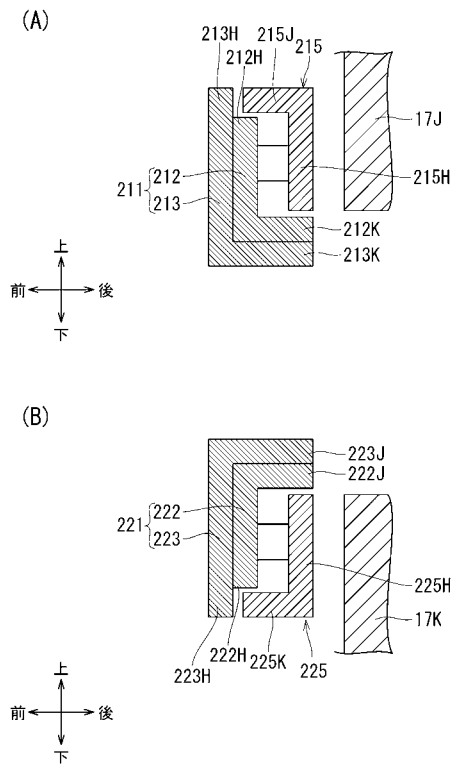
【 図 8 】



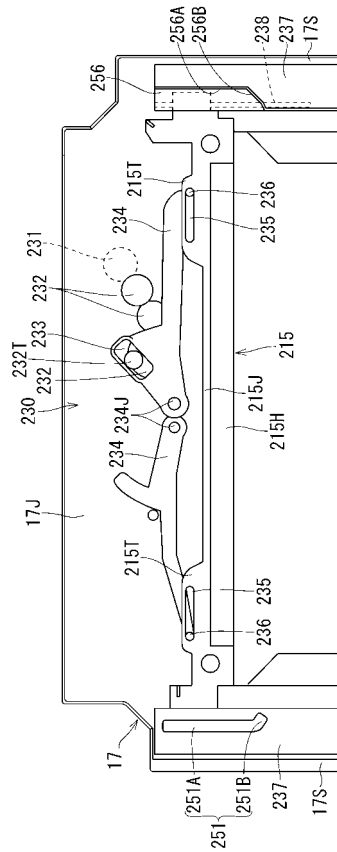
【 図 1 0 】



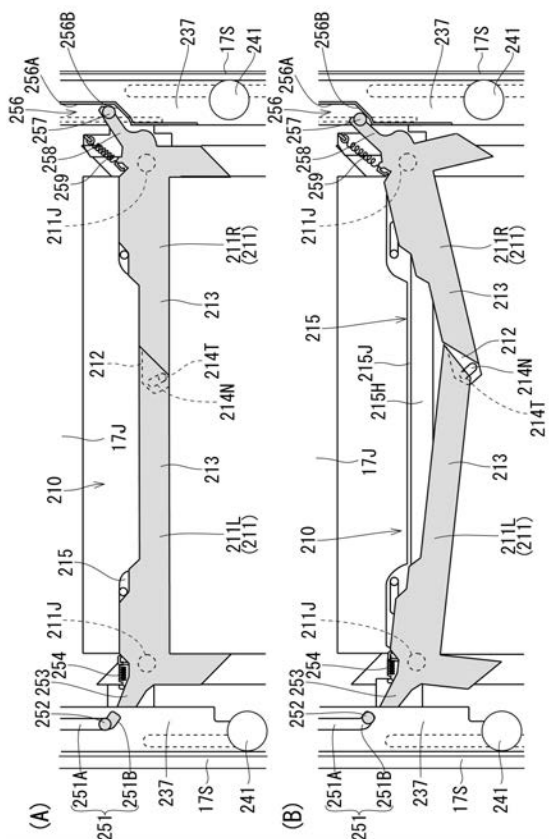
【図 1 1】



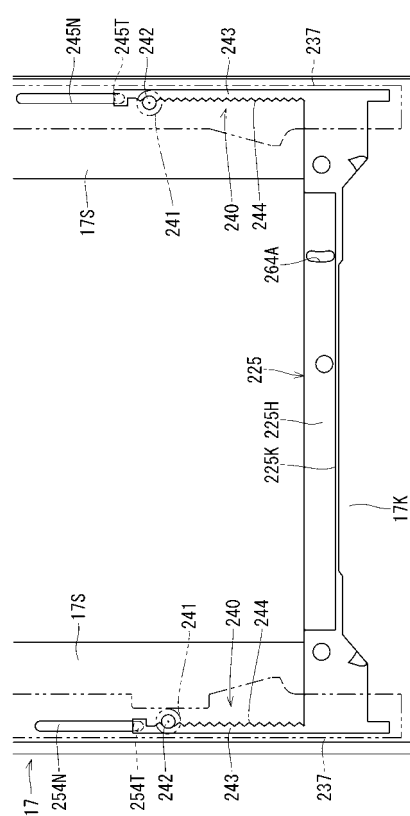
【図 1 2】



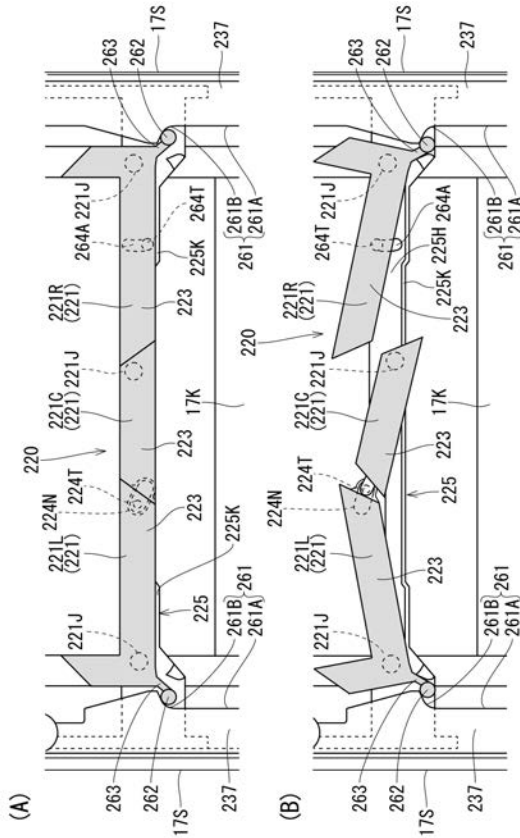
【図 1 3】



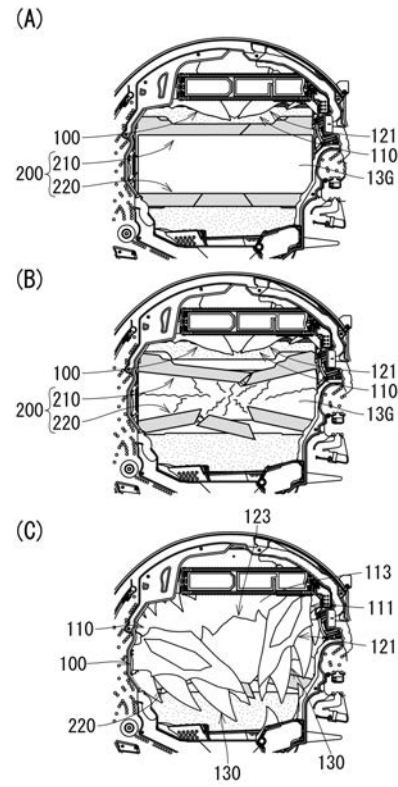
【図 1 4】



【図 15】



【図 16】



【図 17】

